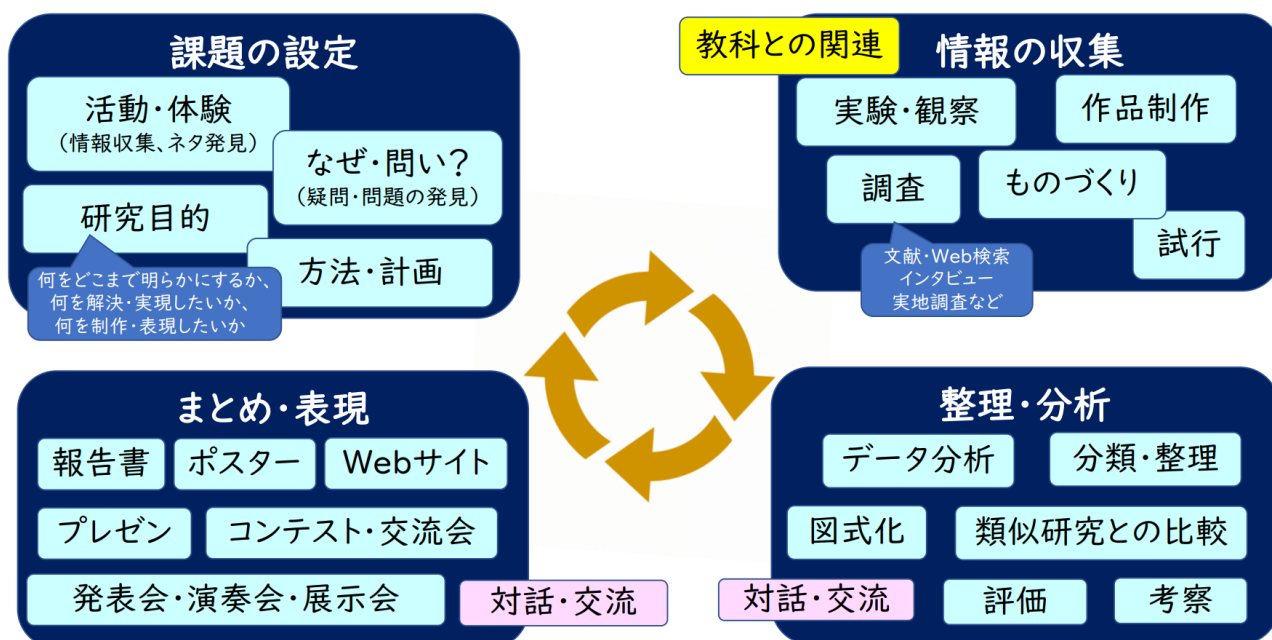


探究的な学びの手だて

【新たな「探究のプロセス」シブヤ版】



探究の

- ① 課題の設定
- ② 情報の収集
- ③ 整理・分析
- ④ まとめ・表現

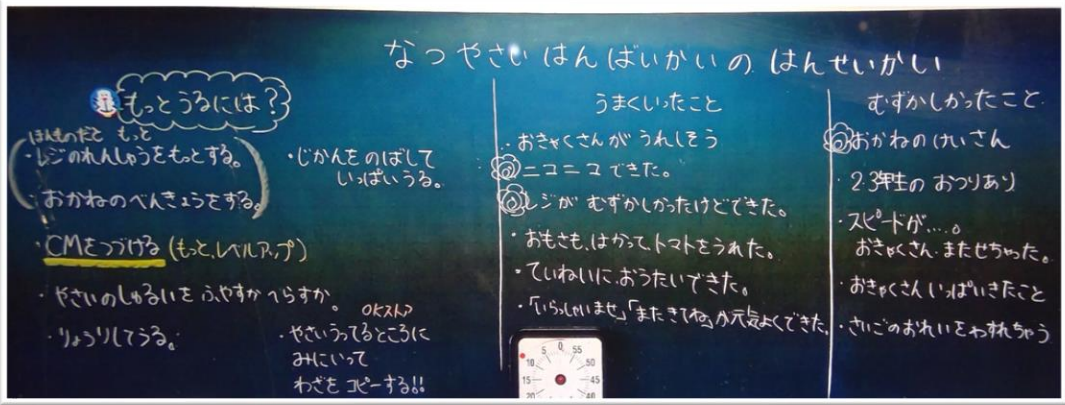
の過程において効果的だった手だてを紹介します。

【① 課題の設定】

手だて	新宿御苑での季節探し（1年）
意図	季節による自然の変化という視点をもたせ、「樹木は季節によりどのように変化していくのだろうか」という探究課題を設定する。
実際	  季節により樹木の様子が大きく変わることや関心が薄かった季節の様子について知ることができ、自然についての興味関心が深まった。

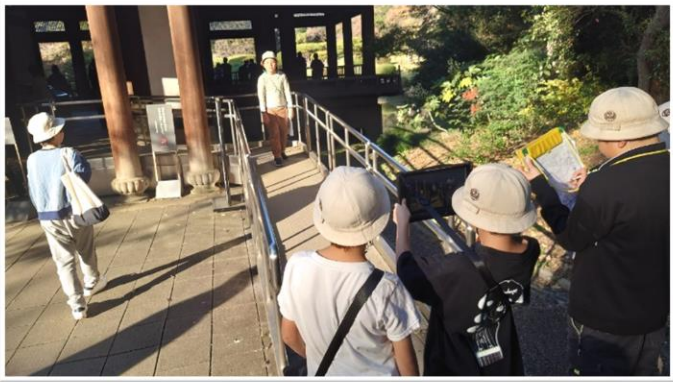
手だて	保育園児を招待した「あきのすてきまつり」の開催（1年）	
意図	自分たちよりも年少者である保育園児を招待することで相手意識をもたせ、「保育園児も楽しめる秋祭りにするためにはどうしたらいいだろう」という課題設定につなげる。	
実際		保育園の子も楽しめるように、ルールを易しい方向に修正したり、丈夫なおもちゃに作り変えたりする工夫が見られた。また、児童との話し合いにより、1年生もお客さんとお店番の2役を行うことになったため、園児に声掛けしながら楽しく遊ぶ場面、お店番を一人ですることにより園児にどう対応したらよいかをそれぞれが考えなければならぬ状況が生まれ、自分事として活動することができた。

手だて	ゲストティーチャー：東急株式会社より（6年）	
意図	第1次、第2次までの学習の成果を聞いてもらい、講演、ワークショップを行うことで、第3次の課題設定につなげる。	
実際		これまでの学習を認めて励ましてもらい、今後のモチベーションにつながった。どんな街づくりをしたいか、どんな方法で表現したいか、計画を立てることにつながられた。

手だて	夏野菜販売会の反省会～Aから2回目のPへ（ちはと学級）	
意図	栽培・販売活動を繰り返す際、よりよい活動にするための意識付けを行う。	
実際	 夏野菜販売会の後に反省会を行った。「うまくいったこと」は、冬野菜販売会でも引き続き行う。「難しかったこと」は、次の販売会までに、できるようになる。そして、「もっと売するために何をしたいか」を考えた。児童から出た、「レジの練習」「お店を見に行く」「店員さんの技をコピーする」というアイデアを、2回目の「情報収集」の活動として取り入れ、同じ活動でも、児童が「自分たちの力で、レベルアップした！」と感じられるように指導計画を組み立てた。	

【② 情報の収集】

手だて	まち探検（２年）
意図	身近な地域の場所について、自分の生活と結び付けながら、地域の人に質問したり話したりする。
実際	  班ごとに見学するルートを決め、まち探検へ行った。地域のお店や施設に行った際は、疑問に思っていることや、もっと知りたいことを直接質問した。地域の人に直接会い、質問をすることによって、身近な場所への関心を高めることができた。

手だて	実地調査（４年）
意図	実際に自分の目で見て、見学・調査を行うことで、教室では得られない情報を得る。
実際	 3つのグループ（新宿御苑、北参道駅、代々木駅）に分かれて、バリアになっているところ、バリアフリーになっているところ、ユニバーサルデザインがあるところの調査を行い、情報収集した。 課題解決のために必要だと考えた情報を実際に自分たちの目で確かめ、次の情報の整理分析に向けて意欲を高めることができていた。

手だて	実地調査（５年）
意図	実際に自分の目で見て、見学・調査を行うことで、教室では得られない情報を得る。
実際	 6つのグループに分かれて、コースを決めて、調査を行い、情報収集した。 課題解決のために必要だと考えた情報を実際に自分たちの力で確かめ、次の情報の整理分析に向けて意欲を高めることができていた。

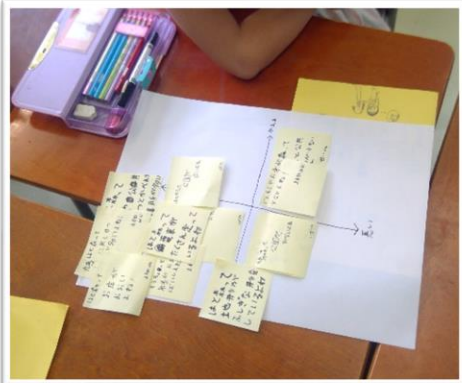
手だて	街頭インタビュー（6年）	
意図	生の声を聞くことで、意欲を高めると共に、教室の中では得られない情報を得る。	
実際		QRコードを読み取ってもらいデジタルで回答してもらう方法と、その場でやり取りして回答してもらう2つ方法で情報収集をした。 子供たちの意欲的な姿と、自分たちの力で得た貴重な情報に、探究心の高まりが感じられた。

手だて	ゲストティーチャー：原宿外苑中学校 校長先生へのインタビュー（ちはと学級）	
意図	畑の土作りについて教えてもらい、よりよい野菜栽培に活かす。	
実際		野菜の皮やシュレッダーした後の紙など、栄養たっぷりの土を身近なものを混ぜることで、作ることができることを知ることができた。実際に混ぜる経験もさせていただき、おいしい野菜を作る方法を、経験を通して知ることができ、以降の活動への意欲が高まった。

【③ 整理分析】

手だて	付箋紙を用いた「さくせんボード」（1年）	
意図	個人の考えからグループでの考えに広げ話し合う必然性が生まれ、よりよい考えにまとめていこうという思考の流れができる。話し合いの途中で「見せあいっこタイム」をとることで、考えの方向性の正しさの確認をしたり、めあて達成に近付くためのヒントを得たりすることができる。	
実際		活動前の話し合いで、 ①おもちゃについて、 ②ルールについて、 ③その他（説明の仕方など） の3つに分けて付箋紙を使うことを共通理解した。考えを書いた同じ色同士の付箋紙を並べたり、同じ考えの付箋を重ねたり（近くに置く）するなど、1年生なりに価値のある活用をすることができた。

手だて	色付箋（２年）	
意図	自分たちのまちの中で知っている場所を色ごとに分け、まちの様子进行分类する。	
実際		まちの知っている場所を色ごとに付箋で分けて、まちの様子を知ることができた。 ○お気に入りの場所・おすすめの場所 →ピンク ○不思議だなと思う場所→青 ○行ってみたい場所・見てみたい場所→黄色 ○その他→緑 また、グループごとにまち探検へ行く場所を決めたり、ルートを決めたりするのに有効的だった。

手だて	思考ツールを活用した話し合い（３年）	
意図	思考ツールを使うことで、様々な情報や考えを整理し、課題を明確にする。	
実際	 	鳩森マップをもとに、「鳩森ってこんな町」というテーマで気付いたことを個人で付箋に記入した。情報の整理にどの思考ツールが適切かを学級全体で話し合い、座標軸を使って、自分たちの気付いたことを分類していった。縦軸を「良い・悪い」とし、横軸を「変えた方がいい」「そのままで良い」に設定して整理することで、自分たちの町のよさを客観視でき、これから自分たちで変えていきたい町の課題について明確化することができた。

手だて	思考ツール（ＫＪ法）を活用した話し合い（４年）	
意図	思考ツールを使うことで、様々な情報や考えを整理し、課題を明確にする。	
実際		３つのグループに分かれて実地調査の際に撮った写真をもとに、見付けたバリアやバリアフリー、ユニバーサルデザインについて個人で付箋に記入した。情報の整理にどの思考ツールが適切かを学級全体で話し合い、ＫＪ法を使って、自分たちの見付けたことをグルーピングしていった。 「目が不自由な方へのバリアフリーが多い」、「代々木駅と北参道駅ではバリアフリーの種類が違う」など、多くの意見が出た。 子供たちの意欲的な姿と、自分たちの力で得た貴重な情報に、探究心の高まりが感じられた。

【④ まとめ・表現】

手だて	地域マップの作成（3年）
意図	町探検や社会の学習を生かし、自分達の町が住みやすい町かどうかを考える。
実際	 身の回りにある施設や店を挙げ、色別に分類することで、鳩森がどのような街なのかを話し合った。地図を読むことが難しい児童もいるので、児童全員の家の位置をシールで示した拡大地図を用意した。話し合いながら施設を分類していくことで、普段意識していない公共施設や自然、交通の便利さなどにも目を向けることができた。マップ作りを通して地域を俯瞰で見ることにより、地域のお年寄りや幼児のいる家庭にとっても、過ごしやすい町にしていきたいというテーマをつくることができた。

手だて	ICTの活用（5年）
意図	情報共有アプリを活用し、新宿御苑の地図上に見学の際に見つけたもの等を入力し、情報を整理した。
実際	 地図上の実際にあった位置に撮影してきた写真と共に入力した。入力したものの位置を調整したり色分けをしたりする際に、自然と対話が生まれ、グループ内の学びが深まっていた。